

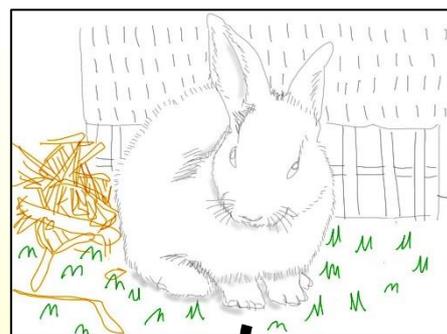


～描く経験を増やす～

見えにくさのある子どもは、描くことにあまり関心を示さないこともあります。ちょっとした工夫を加えることで、ぬり絵をしたり絵を描いたりしやすくなります。子どもの好きなキャラクターや身近な物を使うのは、やってみよう！と意欲を引き出す工夫として、どの子どもにとっても共通することですが、ぬり絵を例に挙げると、次のような工夫をすることで、見えにくさのある子どももより取り組みやすくなります。

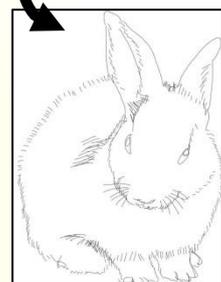
## ① 背景をなくす

色をぬる対象に注目しやすくするためには、背景が妨げになることがあります。右のような素材だと、目を近づけて見ようとすると全体像を把握するのに時間がかかったり、背景はキャラクターよりもさらに複雑だったり、苦労して背景が何を表しているか分かったとしても、子どもにとって分かりにくさを大きくすることもあるので、できるだけなくすようにします。



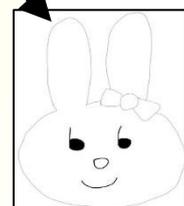
## ② 単純化する

(背景をなくしたとしても)色をぬる対象の形が複雑だと、どこをどのように塗ればよいのか分かりにくくなります。右のようにリアルなイラストだと、境界線や奥行きなどが捉えにくいこともあります。そのときは、より単純な線で描かれたものに代えます。



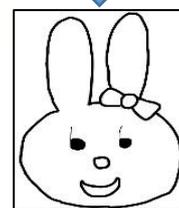
## ③ 輪郭線をはっきりさせる

輪郭線が細かったり薄かったりすると、ぬる場所が分かりにくいものです。サインペンで太くするなど、よりはっきりくっきりした輪郭線にします。



## ④ 色をぬる範囲を誘導する

色をぬる範囲が大きいと、苦手意識がある子どもは意欲を持ちにくくなる場合があります。そのため、「リボンとお口をぬればいいんだよ」という範囲を限定して段階的にすることで、安心して取り組みやすくなります。また、はみ出すことを気にする子どもの場合は、背景を黒などの濃い色でぬっておいたり、立体コピーや自由曲線定規などで輪郭を高くしたりする方法もあります。



子どもの様子によって、素材の大きさや使う筆記具の種類などを試してみてください。ご家庭で準備できるものには限りがあるかもしれませんが、乳幼児教育相談の場ではさまざまな物を準備しています。あれこれ試して気に入ったものが見つかって、意気揚々と絵を描く子どもの姿に「家ではなかなか描けなかったのに！」と、驚く保護者さんもいらっしゃいます。子どもが初めてのことでニコニコしながら取り組んでいる姿を見られるのは、相談を受ける側にとっても大変うれしい瞬間の1つです。

